

# 縄文時代の編物を題材とした 考古学ワークショップの実践

## A Practice of Archaeological Workshop on Basketry of Jomon Period

金沢大学資料館特任助教 松 永 篤 知

Atsushi MATSUNAGA

### 1. はじめに

近年、金沢大学資料館では、年間5回以上の企画展（学生企画展、特別展、アウトリーチ展を含む）を実施している。それらが功を奏し、年々来館者数は増加しており、昨年度は史上最多の年間8,990人の来館を記録した。平成元年の開館から10年間は、年間来館者数200～300人程度だった状況から考えると、これは驚異的な数字である。しかし、ここ数年の伸びについては、平成28年度に当館が博物館相当施設に指定されたこと、平成29年度に当館所蔵の加賀藩校扁額が金沢市の有形文化財に指定されたことなど、来館者が増えるような出来事が続いたことが少なからず影響しているものと思われる。そのような流れの中で今年度（平成30年度）は、資料館として特別大きな動きはなく、来館者数を維持ないし増加させるにはさらなる活動展開が必要となった。

そこで今年度、金沢大学資料館初の試みとして、筆者が小学生向けの考古学ワークショップを企画した。当初、他の歴史系博物館や埋蔵文化財センターの事例を参考に、石器作り体験やガラス玉作り体験、機織り体験、縄文施文体験、拓本体験など、様々なワークショップ案を検討したが、資料館所蔵考古資料との関連付けや筆者の学術的専門性、ワークショップの実施費用などを勘案して、今回は縄文時代の編物を題材とすることにした。以下、本論では、その内容と成果、今後の課題などについて具体的に記す。

### 2. ワークショップの概要

今回の考古学ワークショップは、簡単に言えば紙製のクラフトバンドを使って、縄文時代の編物と技術的に共通する編物を作ってもらうという内容である。北陸地方では、縄文時代前期以降、各種編物資料（カゴ・編布などの実物資料、土器底部の敷物圧痕資料）が見つかっており、現代に通じる広義の網代編み・もじり編みが、様々な形で用いられていたことが明らかになっている（松永2013a・b）。その編物製作技術を、疑似的に体験してもらうことで、参加者に歴史が身近なものであることを伝え、日本列島および東アジアの人類史への理解・関心を高めることが、今回のワークショップの趣旨である。計画にあたり、小学生向けのワークショップで本格的な編物を製作することは、技術や費用の面で困難と判断し、紙製クラフトバンドによる簡易編物教室とした。その点で

は、他の機関で実施されているものと大差ない。

ただし、約20年に渡って東アジアの先史編物を研究している筆者が、これまでの研究成果を踏まえて縄文時代の編物について解説するという点では、他機関の類似ワークショップとは一線を画す。特に、筆者は北陸地方出身者かつ金沢大学出身者であり、石川県を含む北陸地方の民具にも知識があることから、歴史学習だけでなく地域学習としても意義あるワークショップにすることを意識して内容を組み上げた。本活動を通じて、地域の工芸技術を伝承していくことの大切さも伝われば、非常に意義深い事業となることが期待できる。

実施日は、小学生が最も来やすい夏休み期間のうち、お盆明け翌週の平日とし（資料館の開館が原則平日のみのため）、月曜日を会場準備日と想定して、翌火曜日の8月21日に設定した。

### 3.ワークショップの準備

ワークショップを実施するにあたり、平成30年5月より金沢大学資料館に収蔵されている四高考古資料および金沢大学埋蔵文化財調査センターに収蔵されている角間遺跡出土資料の縄文土器を精査し、土器製作時に敷かれていた編物の圧痕（敷物圧痕：網代圧痕・スダレ状圧痕）が底部によく残るものを抽出した。そして、各資料の編み方などを詳細に観察し、どのような編物が原体となっているかを検討した。具体的には、以下の通りである（図1・2の拓影参照）。

#### 資料1（図1-1）

網代圧痕。2本超え2本潜り1本送りの網代編みで、経条・緯条ともに丸みを帯びた太い材を用いる。四高考古資料（箱第卅函）で、採集地は不明。側面に条痕文が施され、晩期のものと見られる。資料館紀要13号（松永2018）の図1-4と同一資料。

#### 資料2（図1-2）

網代圧痕。2本超え2本潜り1本送りの網代編みで、経条・緯条ともに丸みを帯びた太い材を用いる。四高考古資料（箱C218）で、採集地は不明。側面に斜縄文が施される。

#### 資料3（図1-3）

網代圧痕。2本超え2本潜り1本送りの網代編みで、経条・緯条ともに扁平で細い材を用いる。四高考古資料（箱第卅函）で、採集地は不明。

#### 資料4（図1-4）

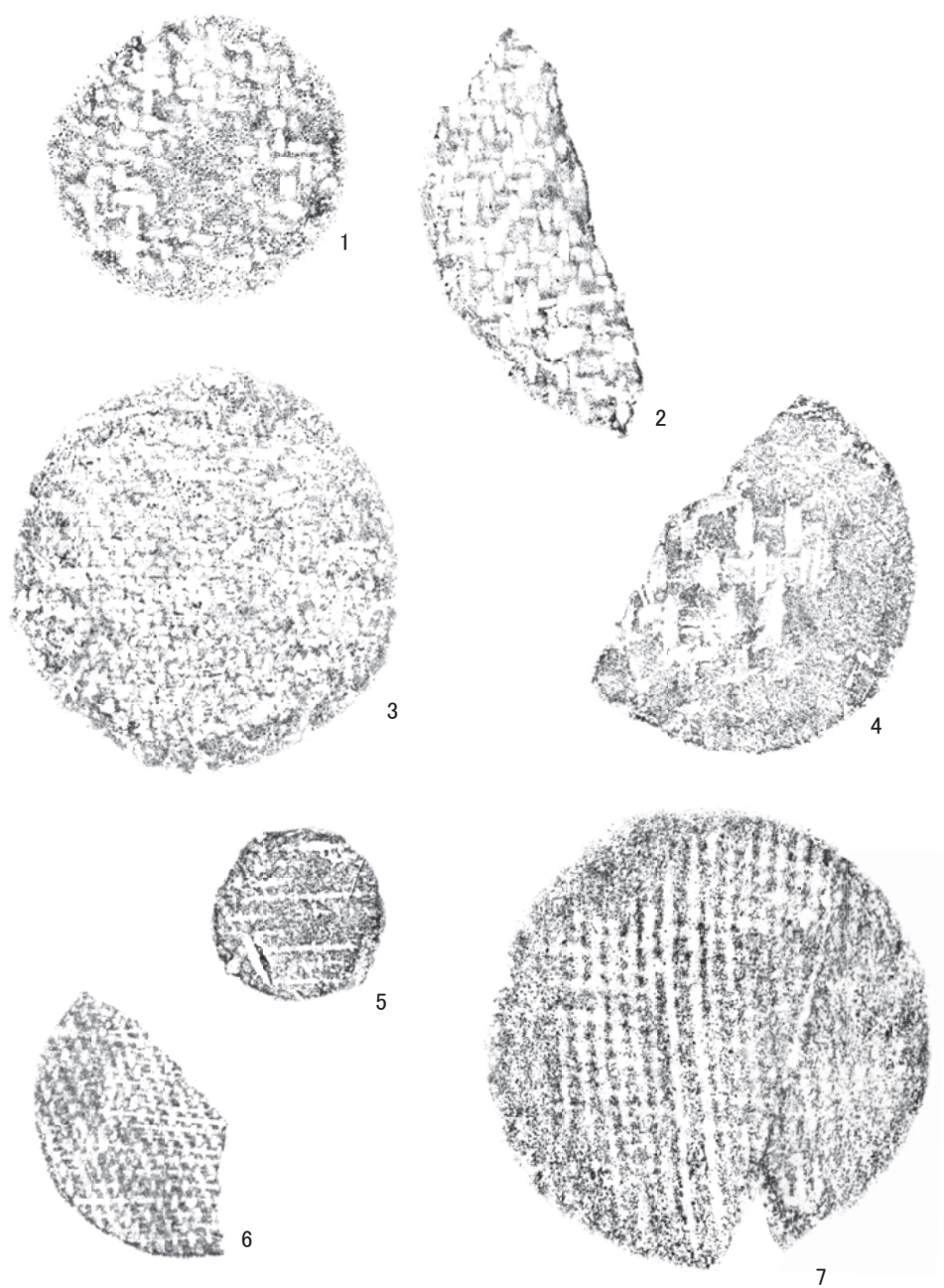
網代圧痕。2本超え1本潜り1本送り（1本超え2本潜り1本送り）の網代編み（飛びゴザ目編み）で、経条・緯条ともに扁平で太い材を用いる。四高考古資料（箱C210）で、採集地は不明。

#### 資料5（図1-5）

網代圧痕。2本超え1本潜り1本送り（1本超え2本潜り1本送り）の網代編み（飛びゴザ目編み）で、経条・緯条ともに扁平で細い材を用いる。四高考古資料（箱B161-11）で、採集地は不明。色調や底部形態、調整などから後晩期のものと見られる。

#### 資料6（図1-6）

網代圧痕。2本超え1本潜り1本送り（1本超え2本潜り1本送り）の網代編み（飛びゴザ目編み）で、経条・緯条ともに扁平で細い材を用いる。四高考古資料（箱C203）で、採集地は不明。色調や底部形態、調整などから後期のものと見られる。



1～7: 四高考古資料（出土地不明）

図1 金沢大学資料館・金沢大学埋蔵文化財調査センター所蔵資料の敷物圧痕（1）

資料7 (図1-7)

スダレ状圧痕。左絡み (Lの縄文原体の撚り=現代繊維工芸のS撚りと同様の絡み方) のもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。四高考古資料 (箱第卅函) で、採集地は不明。側面に斜縄文 (RL) が施され、中期のものと見られる。資料館紀要13号 (松永2018) の図1-3と同一資料。

資料8 (図2-8)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。四高考古資料 (箱第卅函) で、採集地は不明。

資料9 (図2-9)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。四高考古資料 (箱B163) で、加賀河北郡刈安 (現津幡町) 採集品である。

資料10 (図2-10)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。角間遺跡出土資料。発掘報告 (金沢大学埋蔵文化財調査センター2017) の遺物番号372と同一資料。中期前葉に位置づけられる。

資料11 (図2-11)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。角間遺跡出土資料。発掘報告の遺物番号379と同一資料。中期前葉に位置づけられる。

資料12 (図2-12)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。角間遺跡出土資料。発掘報告の遺物番号415と同一資料。中期前葉に位置づけられる。

資料13 (図2-13)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。角間遺跡出土資料。発掘報告の遺物番号418と同一資料。中期前葉に位置づけられる。本資料は、スダレ状圧痕がずれて重複する二重痕の類である。

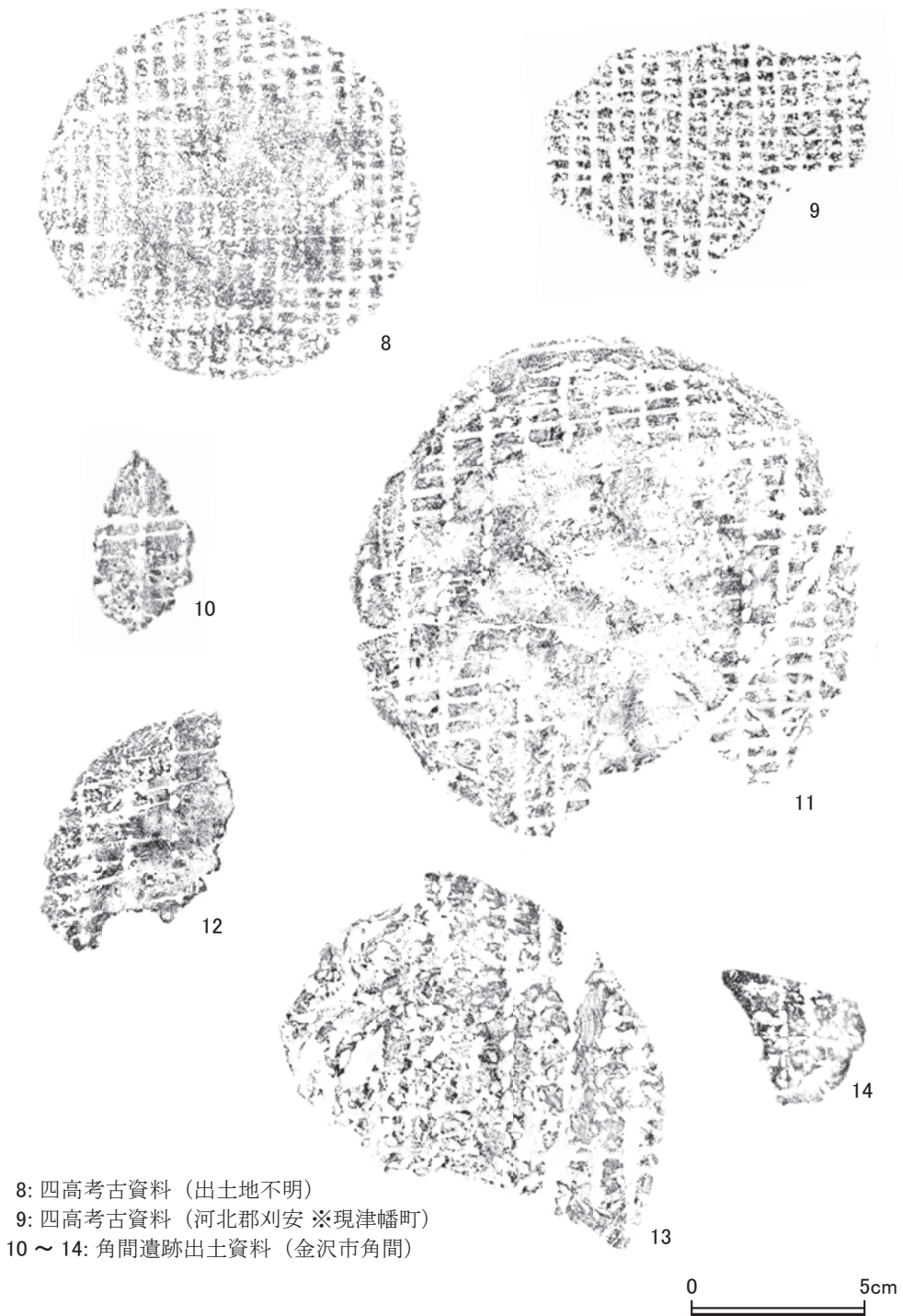
資料14 (図2-14)

スダレ状圧痕。左絡みのもじり編みで、直線的な緯条に丸みを帯びた経条を絡める。角間遺跡出土資料。発掘報告の遺物番号481と同一資料。中期前葉に位置づけられる。

以上のうち、資料館の四高考古資料については、いずれも底部付近のみの破片資料のため、詳細時期が特定できないものばかりであった。それどころか、1点を除き採集地も不明であった。縄文時代中期前半などの日本海側地域 (北陸を含む) に卓越するスダレ状圧痕の存在や、後期前半をはじめとして (北陸以西の) 西日本の主体をなす2本超え2本潜り1本送りが多いことから、おそらく北陸地方を中心とした縄文土器底部と考えられるものの、それ以上のことは分からなかった。

逆に、金沢大学埋蔵文化財調査センターの角間遺跡出土資料については、いずれも縄文時代中期前葉に位置付けられ、圧痕の種類も左絡みのもじり編みによるスダレ状圧痕に限られることから、該期の北陸地方の典型的資料であることが明らかとなった。今回のワークショップは、クラフトバンドによる簡易編物教室を想定していたため、同素材には不向きで、編み台・編み錘のセットを用意する必要もある、もじり編みの編物は早い段階から作らないことに決めていた。しかし、角間遺跡に良好なスダレ状圧痕があることから、当該資料もきちんと紹介すべきと考え直した。





8: 四高考古資料（出土地不明）  
9: 四高考古資料（河北郡刈安 ※現津幡町）  
10～14: 角間遺跡出土資料（金沢市角間）

図2 金沢大学資料館・金沢大学埋蔵文化財調査センター所蔵資料の敷物圧痕（2）

こうして、今回のワークショップでは、構造的に最も編みやすい上、北陸地方を含む西日本に多い2本超え2本潜り1本送りの網代編みでコースターを作ることを基本とし、さらにもじり編みを含む他の編み方についても一通り解説することに決定した。

そして、6月下旬からは、広報活動も開始し、金沢市の生涯学習情報誌（金沢市教育委員会生涯学習課 2018）および資料館公式Webサイトに講座案内を掲載した。さらに、夏休み前の7月上旬に、A4チラシ・A3ポスターを印刷し、金沢市・野々市市・津幡町・内灘町の各小学校に送付した。7月中旬までに20名ほどの申込みがあり、8月初めには30名を超えた。

なお、広報用のチラシ・ポスターの作成は、印刷以外すべて筆者が自分自身でおこなった。その過程について、以下簡単に紹介する。まず、チラシ・ポスターに配置する画像パーツの作成をおこなった。網代圧痕を有する縄文土器底部、クラフトバンドで編んだ網代編みのコースターの写真をそれぞれ撮影するとともに、体験内容をイメージしやすいように編物を作る縄文人のイラストを自作した。このイラストに関して、原画の段階では、網代編みの敷物を作る縄文人の横に網代編みのカゴを描いていたが（図3左上）、金沢大学にカゴの資料は収蔵されていないことから、実態に即すべきと考えてデジタル化の段階でカゴの絵はカットした（図3左下）。その後、Adobe Illustratorのアートボード上に各画像パーツを配置し、タイトル・実施内容などのテキストも加えて、それらの位置を調整した。チラシ・ポスターについては、全体として見やすいことを優先し、単純なデザインに仕上げた（図3右）。



図3 ワークショップのチラシのデザイン



図4 旧制第四高等学校コーナーに追加展示した縄文時代遺物

また、資料館常設展エリアの旧制第四高等学校コーナーに、四高考古資料および四高由来と見られる縄文時代遺物（縄文土器・石鏃・石錘・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石）を追加展示した（図4）。ワークショップの参加者に展示室を見てもらい、編物体験の前提となる縄文時代の生活・文化について理解してもらうためである。

7月後半には、ワークショップに使う材料・道具（紙製クラフトバンド・ボンド類・ハサミ・クリップ類・定規類・粘着テープ）を発注し、実施日前日までに人数分のセットを用意した。これに併行して、当日配布用のプリント資料も人数分作成し、実施日の8月21日を迎えた。

#### 4. ワークショップの実践

平成30年8月21日、「縄文時代のあみもの体験」の表題で、ワークショップを実施した。午前の部（10：00～12：00）・午後の部（13：00～15：00）に分けて同じ体験内容のワークショップを2回実施した。今夏の酷暑や学校行事との重複によりキャンセルが出たため、最終的な参加者は午前の部が8組18名（小学生9名、保護者9名）、午後の部が4組10名（小学生6名、保護者4名）となった。

中央図書館のブックラウンジで受付をした後、参加者には資料館展示室に移動してもらい、筆者が資料館および展示資料について、約15分の簡単な解説をおこなった（図5）。

ちょうど、展示室に入ってしまう前の企画展エリアで夏季企画展「お雇い外国人と石川の近代教



図5 展示室解説の様子

育～ランパート、ホイットニー、ウィンの仕事～」を開催していたため、まずはその展示について解説した。それから、常設展の加賀藩校扁額、当世具足、龍護寺仏像、四高考古資料（騎馬人物埴輪・弥生土器・縄文土器・縄文石器）の順に解説した。このように展示を見ていくことで、明治時代、江戸時代、平安時代、古墳時代、弥生時代、縄文時代と、時代を遡っていく流れを演出した。そして、四高考古資料の縄文時代遺物を見ながら、今回のワークショップの題材とした編物の時代背景について理解してもらった。



図6 編物解説の様子

その後、中央図書館3階のオープンスタジオに移動し、筆者が縄文時代の編物について、約15分の簡単な解説をおこなった（図6）。資料館および埋蔵文化財調査センター所蔵の敷物圧痕資料（網代圧痕・スダレ状圧痕の残る縄文土器底部）や配布プリント（A3用紙3枚、図7）を見ながら、当時の編物にどのようなものがあったのか、編み方を中心に説明した。

それから、各自好きな色のクラフトバンドを選んでもらい、配布プリントに示した手順に従って網代編みのコースターを作ってもらった。まずは、全員2本超え2本潜り1本送りで1点作ってもらい、さらに1～2点、自由な編み方に挑戦してもらった。当日配布プリントには、主要な編み方

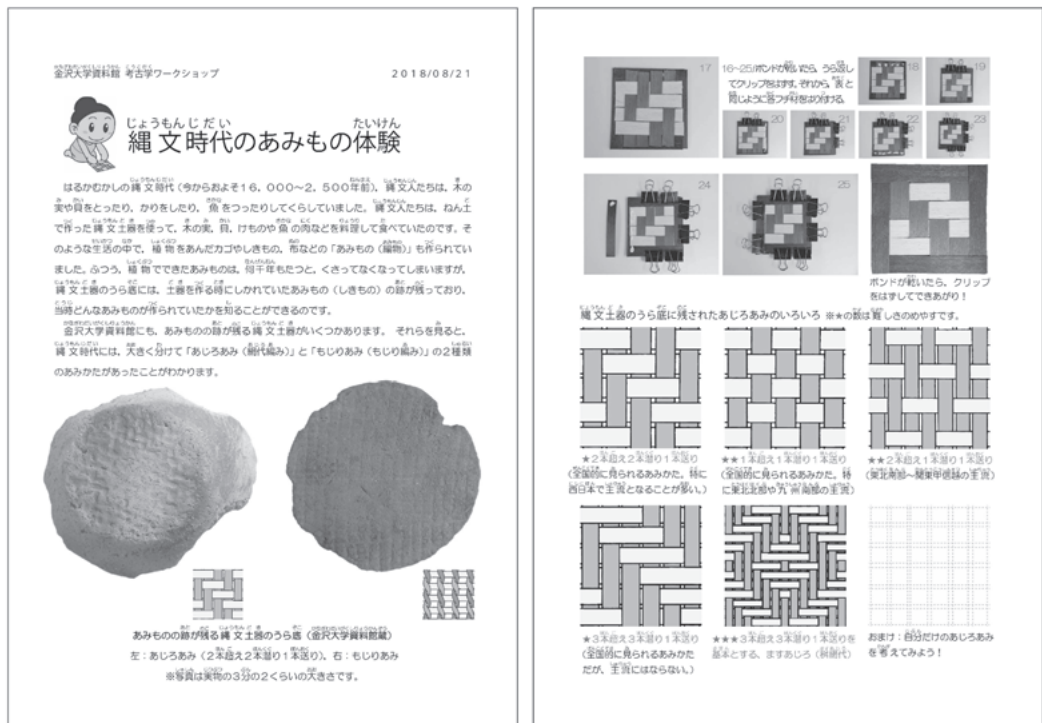


図7 当日配布プリントの一部



の模式図を難易度付きで示すとともに（★2本超え2本潜り1本送り、★★3本超え3本潜り1本送り、★★★1本超え1本潜り1本送り、★★★★2本超え1本潜り1本送り、★★★★★3本超え3本潜り1本送りを基本とする柵網代、星が増えるほど難しいことを示す）、編み方模式図作成用の補助線入り枠も添えることで、参加者が色々な編み方に挑戦したり創造したりしやすくなった。

そして、各部の終了時間に近づいたところで、石川県内工芸品の編物（白山市旧鶴来町の檜細工、白山市旧河内村のこつら細工）も例示しながら、編物について簡単にまとめ、ワークショップを終了とした（網代編みのコースター2～3点の製作で約90分）。

## 5. ワークショップの成果と今後の課題

前述の通り、今回のワークショップには計28名の参加者があり、資料館の来館者数に若干の貢献を果たすことができた。そもそも、大学資料館は一般見学できない施設とされていることが多く、当館は平日10時～16時であればいつでも無料で入れることを知ってもらっただけでも、大きな意義があったものと思う。何より、参加者が楽しそうにコースター作りに取り組んでいたのも、初の試みながら本ワークショップはひとまず成功であったと言える。

単に網代編みのコースターを作るだけでなく、実際の遺物や工芸品を見ながらの解説も加えることで、ワークショップの趣旨である「歴史が身近なものであることを伝え、日本列島および東アジアの人類史への理解・関心を高めること」や「地域の工芸技術を伝承していくことの大切さを伝えること」も、十分達成することができたものと思う。

ただし、実施日や内容には、まだまだ改善の余地がある。実施日については、前述の通りお盆明けの週早々の8月21日に設定したが、小学校によっては登校日と重なってしまったようである。市街地から離れた大学にいと小学生との接点がないため全くの不見識であったが、今の小学生は、夏休み明けに宿題を提出するのではなく、夏休み後半の登校日に提出するとのことで、自由研究などに利用してもらうためにも、実施日はお盆前に設定した方が良かったようである。

また、ワークショップの内容は、小学生全学年を対象としたために極めて簡単な内容にしたが、学年に合わせて網代編みの難度を変えたり（編み方・器種・素材の変更、ボンドの不使用など）、題材をもじり編みのコースターに変えたりすることで、さらなる展開が見込めよう。

さらに言えば、今回は紙製クラフトバンドを使用すると決めていた上、編み台・編み錘のセット（図8）を人数分用意する余裕もなかったために見送ったが、縄文時代中期前半などの北陸地方に卓越するもじり編みの編物を作ってもらう方が、本学のワークショップとしてはより適切だったかも知れない。先に紹介したように、もじり編みの敷物圧痕であるスダレ状圧痕は、資料館・埋蔵文化財調査センターともに資料がある。

さらに、編物以外の考古学ワークショップ、考古学以外の資料館ワークショップも含めて、今後様々な可能性を模索していく必要がある。

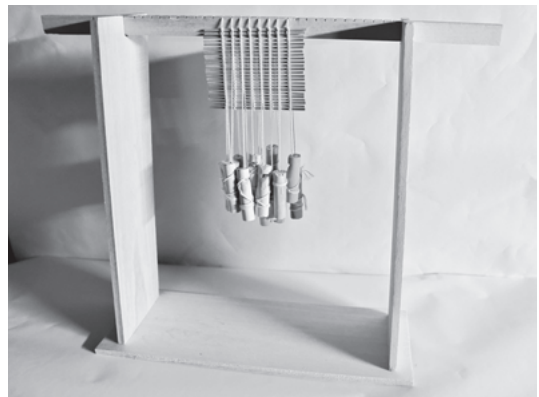


図8 もじり編み製作用の編み台・編み錘（筆者自作）

## 6. おわりに

金沢大学資料館は、来年度設立30周年を迎える。開館以来、概ね右肩上がりです。来館者数が伸びてはいるが、今回の小学生向けワークショップのような新たな試みに積極的に挑戦することで、さらなる発展が期待できるのではないだろうか。何より、一般の方々の認知度を高めることが、資料館活性化の最善手と考える。学術的価値の高い様々な資料を、無料で自由に見ることができるという大学資料館の良さは、もっと外にアピールすべきであろう。そのためには、こちらからの情報発信の方法を工夫する必要がある。微力ながら、筆者も様々なアイデアを提示して、資料館の発展に貢献したい。

本ワークショップの実施費用については、平成30年度きょうこう奨励金給付による助成を受けた（研究課題名「縄文時代の編物を題材とした考古学ワークショップの実践」）。当資料館の活動にご理解頂いた、公益財団法人日本教育公務員弘済会石川支部の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 参考文献

金沢市教育委員会生涯学習課 2018 『子どもと大人のための生涯学習情報誌 みまっ誌』 Vol.70

金沢大学埋蔵文化財調査センター 2017 『金沢大学構内遺跡—角間遺跡、宝町・鶴間遺跡—』

松永篤知 2013a 「東アジア先史時代の植物質編物の研究」『名古屋大学学術機関リポジトリ』  
(<http://hdl.handle.net/2237/17973>)

松永篤知 2013b 「縄文・弥生時代の編物—北陸地方を中心に—」『埋文とやま』 vol.125 富山県埋蔵文化財センター、pp.4-5

松永篤知 2018 「金沢大学資料館所蔵考古資料の再整理」『金沢大学資料館紀要』 第13号、pp.17-25